

教育  
教育実践高度化専攻  
(別添資料)

平成28年6月

兵庫教育大学

## 目 次

(別添資料1) 教員養成スタンダード(大学院)(抜粋) . . . . .	1
(別添資料2) 教員養成スタンダード(大学院) 自己評価票 . . . . .	6
(別添資料3) ラーニングコモンズの設置状況 . . . . .	11

# Standards

for Teacher Education in Graduate School

## 教員養成スタンダード (大学院)

## 教員養成スタンダード(大学院)の趣旨

教員養成の高度化を見据えて、教員等の高度専門職業人としての力量形成を確かなものとするために、経歴や年代の異なる大学院生が、コースの求める人材像に基づいて、それぞれの学びの質的側面を可視化し、自己成長を振り返ることができるツールとして、また、基本的な教員像をベースに、指導教員が、コースの専門性を反映した力量形成を促すカリキュラムや研究をより豊かに指導することができるツールとして、資質能力の体系を大学院版の教員養成スタンダードとして策定しました。

## 教員養成スタンダード(大学院)の2つの枠組み

本学の大学院生の経歴は多様であり、各専攻・コースの養成する人材像やそのコースが目指す知識や技能の定着方針も同一ではないことから、本学大学院の教員養成スタンダードは、全コース共通の「基礎部分のスタンダード」と、各コース別の「専門性の実現に向けたスタンダード」の2つの枠組みで構成しています。

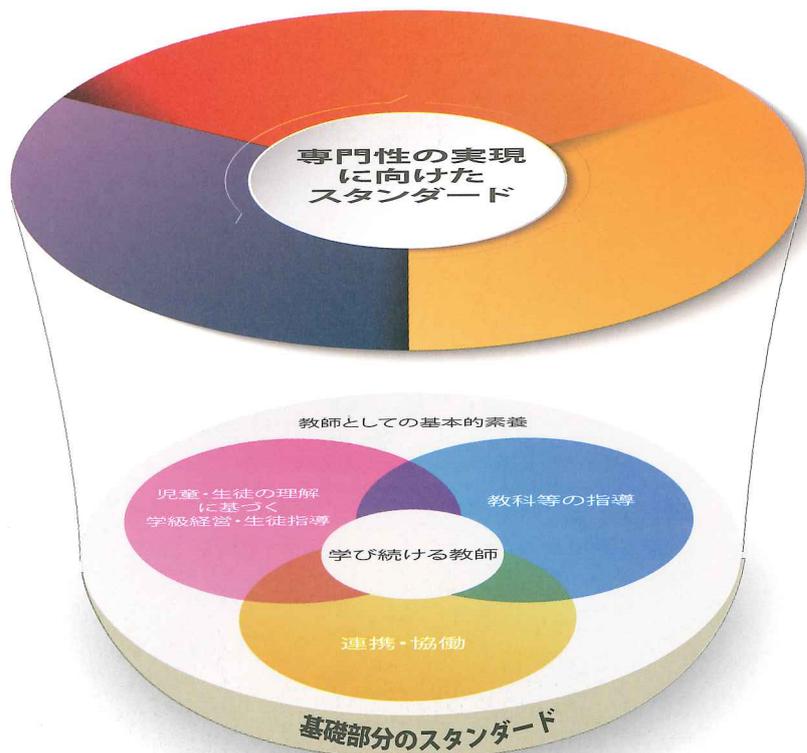
「基礎部分のスタンダード」は、本学学部の教員養成スタンダードの5領域をベースにしなが、教員としての専門性に必要な、基礎的な資質能力について15項目を設定しており、学生は自己の持っている資質能力を大学院の学びで補強していきます。

「専門性の実現に向けたスタンダード」は、各コースが養成する人材像やコースの方針・特性に応じて、コース毎に3～4項目を設定しており、学生は所属コースの「専門性の実現に向けたスタンダード」に基づき、自身の専門性の実現に向けて目標を設定します。

## 教員養成スタンダード(大学院)の評価

教員養成スタンダード(大学院)は、大学が学生に対して学びの保証をするとともに、学生自身が自己の学びを、個人で定める到達目標のための基準として捉え、対外的に自己の学びを保証するエビデンスとなるものです。

「基礎部分のスタンダード」は、4つの尺度(「十分できる」「ほぼできる」「少しできる」「できない」)で自己評価し、自己省察につなげます。また、「専門性の実現に向けたスタンダード」は、個々の学生が自分の学びを設定し、その成果を保証していく「学びのスタンダード」となっています。



## 基礎部分のスタンダード

5 領域	スタンダード	
学び続ける教師	1	省察的実践による課題改善を図ることができる
	2	研究を通じた専門性向上をめざすことができる
	3	長期的視野に立つ主体的な職能成長を図ることができる
教師としての基本的素養	4	社会人としての素養を備え、自立した社会人として行動できる
	5	教師としての自覚と使命感を持ち、専門職業人としての知見を備えている
児童・生徒の理解に基づく学級経営・生徒指導	6	児童・生徒の発達についての知見をもとに児童・生徒にかかわることができる
	7	学級経営の基礎的な知識を踏まえて学び合う集団、自治的・文化的集団の育成ができる
	8	児童・生徒の多面的な理解をもとに、多様な場面に対して適切かつ柔軟に対応できる
教科等の指導	9	専門的な知見をもとに学習内容を探究し、教材開発につなげることができる
	10	学習指導を分析する幅広い知識を有し、確かな学びを導くことができる
	11	学習内容の系統性と児童・生徒の実態を踏まえて指導計画に反映させることができる
	12	教師としての専門的な知見を授業研究に生かすことができる
	13	学習評価についての多面的な理解をもとに、評価を学習指導に生かすことができる
連携・協働	14	多様な場面で学校内での協働を進める方法論を身につけている
	15	保護者・地域との親和的な関係を結び、協調的に活動する意義を理解している

## 基礎部分のスタンダード（幼年教育）

5 領域	スタンダード	
学び続ける教師	1	省察的実践による課題改善を図ることができる
	2	研究を通じた専門性向上をめざすことができる
	3	長期的視野に立つ主体的な職能成長を図ることができる
教師としての基本的素養	4	社会人としての素養を備え、自立した社会人として行動できる
	5	教師としての自覚と使命感を持ち、専門職業人としての知見を備えている
子ども理解に基づく指導と学級経営	6	子どもの発達についての知見を踏まえて一人ひとりの子どもにかかわることができる
	7	学級経営の基礎的な知識を踏まえて学び合う集団の育成ができる
	8	子どもの多面的な理解をもとに、多様な場面に対して適切かつ柔軟に対応できる
保育の展開と指導	9	専門的な知見をもとに保育内容を探究し、教材開発につなげることができる
	10	保育方法を分析する幅広い知識を有し、子どもの遊びや育ちを支援することができる
	11	長期的な発達の見通しと子どもの実態を踏まえて指導計画に反映させることができる
	12	教師としての専門的な知見を保育研究に生かすことができる
	13	保育の評価に関する多面的な理解をもとに、評価を指導に生かすことができる
連携・協働	14	多様な場面で園内での協働を進める方法論を身につけている
	15	保護者・地域との親和的な関係を結び、協調的に活動する意義を理解している

## 専門性の実現に向けたスタンダード

専攻	コース	観点	スタンダード
人間発達教育	教育コミュニケーション	探究力	人間、社会、教育について、広い視野から、根本に立ち返って考えることのできる探究力を有している
		実践力	人と人との対話的な関係を構築しながら、組織変革のために提言できる実践力を有している
		研究と実践の融合	実践的研究者としてよりよい実践を探究し続ける力を有している
	幼年教育・発達支援	専門性・研究	乳幼児教育や子育て支援に関する専門的な知見と高度な研究力を持ち、実践の改善に取り組むことができる
		子育て支援	未就園児を含む親子の活動に対する援助と環境構成を適切に行うとともに、地域や保護者の実態に配慮した子育ての支援ができる
		連携・協働	保護者や地域との連携を図りながら、他の教師と協働して保育の改善に取り組むことができる
	学校心理・学校健康教育・発達支援	学校心理	学校における子どもの支援に役立つ心理学的な理論と実践についての理解を深め、それに基づく研究能力と指導・支援力を身につけている
		発達支援	子どもの発達に関する理論と実践についての理解を深め、それに基づく研究能力と指導・支援力を身につけている
		学校健康教育	学校保健、学校安全、健康教育に関する理論と実践についての理解を深め、それに基づく研究能力と指導力を身につけている
	臨床心理学	臨床心理学理論	臨床心理学の支援理論と技術とを知り、学校現場を初めとする各臨床現場での心理士としてこれらの知識・技術を学び続けることのできる専門職者としての探究力をもっている
		臨床心理学実践	学校現場を初めとする各臨床現場での臨床心理サービスに関わる知見と技術を他者と共有し、高め続けることのできる研究・実践力をもっている
		理論と実践の融合	臨床心理学に基づく支援の理論、および支援技術の実習を通じて、学校現場を初めとする各臨床現場で臨床心理学的支援の方法を開発・研究・省察していくことができる

専攻	コース	観点	スタンダード
特別支援教育	障害科学	障害児・者の教育・福祉と支援における連携	障害児・者の教育・福祉に関する理念や制度を知り、多様な学問領域からのアプローチを理解し、多領域の連携・協働による支援について重要性を理解し探究し続けることができる
		障害理解と啓発	視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、言語障害、発達障害、重度重複障害等の多様な障害について、特性の理解を深め、また、障害児・者の周囲に対して理解を促すことができる
		障害児・者、保護者、学級・学校への支援	障害児・者、保護者、学校・学級から地域の支援制度といった、個人レベルから社会レベルに至る様々な次元で、共生社会形成・インクルーシブ教育構築に向けた包括的・体系的支援の必要性を理解し、計画、実践、評価していくことができる
	発達障害支援実践	コミュニケーションと校内体制	教員間コミュニケーションを促す基本スキルを身につけ、キャリアステージに応じて校内や地域の連携・協働を推進することができる
		個別のニーズと指導計画	個別のニーズを見極め、支援・配慮の目標設定を行い、手立て・工夫を取り入れた指導計画を立案して、その結果を評価できる
		通常の学級と特別支援教育	特別支援教育的観点から、通常の学級における授業デザインや学級経営の工夫を考えることができる
教科教育実践開発	言語系教育	教科内容	国語・英語を学ぶ楽しさを知り国語・英語を学び続けることのできる強靱な探究力をもっている
		教科教育	国語・英語の教科指導力にかかる知見を他者と共有し、高め続けることのできる研究力をもっている
		教科内容と教科教育の融合	国語・英語の教育内容に関する高度な専門的知識と国語・英語の教科教育学に基づく知見をもとに、授業の内容と方法を開発・研究・省察していくことができる
	社会系教育	教科内容	社会系教科の内容と社会系教科の背景にある専門諸科学について高い理解力をもっている
		教科教育	社会系教科の教科教育について高い実践力をもっている
		学び続けることができる探究力	修士論文の作成過程において研究の方法を学び、社会系教科の授業力の向上のために強靱な探究力をもって学び続けることができる
	理数系教育	教科内容	数学・理科を学ぶ楽しさを知り、教員として数学・理科を学び続けることのできる強靱な探究力をもっている
		教科教育	教員として、算数・数学、理科の教科指導力にかかる知見を他者と共有し、高め続けることのできる研究力をもっている
		教科内容と教科教育の融合	数学・理科の教育内容に関する高度な専門的知識と算数・数学、理科の教科教育学に基づく知見をもとに、授業の内容と方法を開発・研究・省察していくことができる
	芸術系教育	教科内容	音楽・美術を学ぶ楽しさを知り、教員として音楽・美術を学び続けることのできる強靱な探究力をもっている
		教科教育	教員として、音楽、図画工作・美術の教科指導力にかかる知見を他者と共有し、高め続けることのできる研究力をもっている
		教科内容と教科教育の融合	音楽・美術の教育内容に関する高度な専門的知識と音楽、図画工作・美術の教科教育学に基づく知見をもとに、授業の内容と方法を開発・研究・省察していくことができる
	生活・健康・情報系教育	教科内容	保健体育、技術・家庭、工業、情報に関わる高度な専門的知識と技能を有するとともにそれらを学ぶ楽しさを知り、教員として学び続けることのできる探究力をもっている
		教科教育	教科の学習指導に関わる理論と方法を熟知するとともに、実践力向上に努め続けることのできる研究力をもっている
		教科内容と教科教育の融合	教科の内容に関わる高度な専門的知識と教科教育学に基づく実践的知見をもとに、授業の内容と方法を開発・研究・省察することができる
		複合領域	教科の枠を超えた食育・健康・環境・情報（ICT活用）等の複合領域について高度な知識と技能を有し、さまざまな視点から授業の内容と方法を開発・研究・省察することができる
	学校経営	学校経営	学校経営の基本枠組みと理論を理解し、学校経営における問題発見・課題形成ができ、学校の課題解決の方向性を提案する実践力を有している
		教育行財政	教育行財政の基本法規や制度を理解し、教育委員会における問題発見・課題形成ができ、教育委員会の課題解決の方向性を提案する実践力を有している
		理論と実践の融合	学校経営や教育委員会の事例から、成功要因を探り出し、学校や教育委員会に適用するための中範囲の理論化ができる。また、理論をもとにして、学校や教育委員会の改善方策の具体化ができる
	授業実践開発	授業デザイン	理論と実践の事実に基づいて、カリキュラム、単元、授業の開発（デザイン）を行う力をもっている
		授業実践	授業実践についての高度な知識・技能に基づいて、同僚と協働して実践研究を推進する力をもっている
		授業改善	授業実践の分析・評価に基づいて、課題を発見し、それを解決する力をもっている
		ミドルリーダー	現職教員については、研修リーダーやメンターなど、同僚や若年教員に対して指導的役割を果たし得る力をもっている
	生徒指導実践開発	包括的児童生徒支援に関する知識と理解	包括的児童生徒支援の各領域（生徒指導、教育相談、キャリア教育、道徳教育、学級経営、特別活動・地域連携）に関する知識と理解を十分に持っている
包括的児童生徒支援のリーダーとしての実践力		学校等において、包括的児童生徒支援を実践し、研修企画ができる	
包括的児童生徒支援の研究能力		学校等において、包括的児童生徒支援の各領域に関する実践研究を継続して行うことができる	
小学校教員養成特別	教科・領域の教育内容	小学校の教科・領域の教育内容の特質を知り、教員として研究対象とした教育内容について強靱な探究力をもって学び続けることができる	
	教科・領域の教育方法	小学校の教科・領域の指導と評価にかかる知見を身に付け、実践と省察を通してそれらの能力を高め続けることができる	
	教科・領域の教育内容と教科・領域の教育方法の融合	小学校の教科・領域の教育内容に関する高度な専門的知識と教科・領域の教育方法に関する知見をもとに、授業の内容と方法を開発・実践・省察していくことができる	

教育実践高度化

# 教員養成スタンダード(大学院)による学びのサイクル

## 教員養成スタンダード(大学院)に基づく大学院生活の設計



「基礎部分のスタンダード」を手がかりに学校教育に関わる資質や能力について理解し、自己のキャリアステージに応じた到達目標の達成に向けて研鑽します。また「専門性の実現に向けたスタンダード」に基づいた自らの探究課題を明確化し、研究計画を立てて、大学院生活の設計をします。

自己評価票における  
目標設定

自己評価に  
基づく学びの  
振り返りと  
自己省察

自らの学びを振り返りどのような気づきや発見があったのかを確認します。「基礎部分のスタンダード」と「専門性の実現に向けたスタンダード」に照らし合わせて自らの成長を客観的に見つめ直し、自己評価を行います。それによって自己省察を行い、新たな課題を明確にします。

## スタンダードによる自己評価と学びの総括



## 授業・実習等を通じた研究・研修



授業等を通じて各コースの専門性についての知見を獲得するとともに理論と実践を往還する研究方法を取得し、アクティブ・ラーニング等による能動的な研究態度を形成して自己の探究課題を追求します。その過程でスタンダードに示された資質や能力について自己確認します。

授業等による  
研究・研修の  
過程で資質や  
能力の観点から  
自己確認

多様な成果物を蓄積し、スタンダードに基づいて獲得した資質や能力(到達目標の達成度)を自己評価します。

- ・課題レポート
- ・作品、制作物
- ・実習記録
- ・修士論文
- ・特定の課題についての学修の成果

## 研究・研修成果の記録・蓄積



## 教員養成スタンダード(大学院)

## 【基礎部分】自己評価票

学籍番号		専攻	人間発達教育専攻		
ふりがな					
氏名		コース	教育コミュニケーションコース		
5領域	スタンダード		(上段) 学年当初の自己評価の数値を記入する (下段) 学年末の自己評価の数値を記入する できない : 1      少しできる : 2 ほぼできる : 3      十分できる : 4		
			1年次	2年次	3年次
学び続ける 教師	1	省察的実践による課題改善を図ることができる			
	2	研究を通じた専門性向上をめざすことができる			
	3	長期的視野に立つ主体的な職能成長を図ることができる			
教師としての 基本的素養	4	社会人としての素養を備え、自立した社会人として行動できる			
	5	教師としての自覚と使命感を持ち、専門職業人としての知見を備えている			
児童・生徒の理 解に基づく学 級経営・生徒指 導	6	児童・生徒の発達についての知見をもとに児童・生徒にかかわることができる			
	7	学級経営の基礎的な知識を踏まえて学び合う集団、自治的・文化的集団の育成ができる			
	8	児童・生徒の多面的な理解をもとに、多様な場面に對して適切かつ柔軟に対応できる			
教科等の指導	9	専門的な知見をもとに学習内容を探究し、教材開発につなげることができる			
	10	学習指導を分析する幅広い知識を有し、確かな学びを導くことができる			
	11	学習内容の系統性と児童・生徒の実態を踏まえて指導計画に反映させることができる			
	12	教師としての専門的な知見を授業研究に生かすことができる			
	13	学習評価についての多面的な理解をもとに、評価を学習指導に生かすことができる			
連携・協働	14	多様な場面で学校内での協働を進める方法論を身につけている			
	15	保護者・地域との親和的な関係を結び、協調的に活動する意義を理解している			

※ 以下に該当する場合は、チェック☑してください。

教員免許状を所有しておらず、かつ取得予定もない

【1年次当初の自己評価を踏まえた自己課題】
【1年次修了時の振り返り】
【2年次当初の自己評価を踏まえた自己課題】
【2年次修了時の振り返り】
【3年次当初の自己評価を踏まえた自己課題】
【3年次修了時の振り返り】
【自己成長のあしあと（全課程修了時の総括的な振り返り）】
【自己成長を振り返るキーワードを5つ以内で挙げること】
(                    ) (                    ) (                    ) (                    ) (                    )

提出先：学生は指導教員へ → 指導教員は教育支援課へ (aca-std-gs@hyogo-u.ac.jp)

## 教員養成スタンダード（大学院）

## 【専門性の実現に向けた】自己評価票

学籍番号		専攻	人間発達教育専攻
ふりがな			
氏名		コース	教育コミュニケーションコース
観点	スタンダード	目 標	
探究力	人間，社会，教育について，広い視野から，根本に立ち返って考えることのできる探究力を有している		
1年次修了時の振り返り			
観点	スタンダード	目 標	
実践力	人と人との対話的な関係を構築しながら，組織変革のために提言できる実践力を有している		
1年次修了時の振り返り			
観点	スタンダード	目 標	
研究と実践の融合	実践的研究者としてよりよい実践を探究し続ける力を有している		
1年次修了時の振り返り			

提出先：学生は指導教員へ → 指導教員は教育支援課へ (aca-std-gs@hyogo-u.ac.jp)

## 教員養成スタンダード（大学院）

## 【専門性の実現に向けた】自己評価票

学籍番号		専攻	人間発達教育専攻
ふりがな			
氏名		コース	教育コミュニケーションコース
観点	スタンダード	目 標	
探究力	人間，社会，教育について，広い視野から，根本に立ち返って考えることのできる探究力を有している		
2年次修了時の振り返り			
観点	スタンダード	目 標	
実践力	人と人との対話的な関係を構築しながら，組織変革のために提言できる実践力を有している		
2年次修了時の振り返り			
観点	スタンダード	目 標	
研究と実践の融合	実践的研究者としてよりよい実践を探究し続ける力を有している		
2年次修了時の振り返り			
【自己成長のあしあと（全課程修了時の総括的な振り返り）】			
<p>【自己成長を振り返るキーワードを5つ以内で挙げること】</p> <p>( ) ( ) ( ) ( ) ( )</p>			

☆必要に応じて各記入欄の行を追加してください。本様式が2頁に渡っても差し支えありません。

【指導教員による総括コメント】

提出先：学生は指導教員へ → 指導教員は教育支援課へ (aca-std-gs@hyogo-u.ac.jp)

## ラーニングコモンズの設置状況

学生の自主的・主体的な学びを促進し、基礎的な力の修得をさらに確実なものとするため、大学の各エリア・施設を機能別にゾーニングしラーニングコモンズとして整備した。

	施設名	主な用途	席数	設備
総合研究棟 1階	オープンセミナールーム	グループ学習・自習	30席	移動式ホワイトボード4台 70インチタッチディスプレイ1台
総合研究棟 2階	教職キャリア開発センター	主として教員採用試験の グループ学習	18席	テレビ・ブルーレイディスクプレイヤー各2台 パソコン・スキャナー各6台 プリンター1台
附属図書館 1階	PAO	グループ学習・自習	71席	パソコン20台、プリンター2台 プロジェクター・スクリーン1式
附属図書館 地階	グループラボ1	グループ学習	8席	テレビ1台、メディアプレイヤー1式
	グループラボ2	グループ学習	8席	テレビ1台、メディアプレイヤー1式
	グループラボ3	グループ学習	6席	テレビ1台、メディアプレイヤー1式
大学会館 1階	アクティブラーニングスタジオ	グループ学習・授業	27席	70インチタッチディスプレイ1台 ブルーレイディスクプレイヤー1台
	マイクロティーチングスタジオ1	グループ学習・授業	28席	70インチタッチディスプレイ1台 ブルーレイディスクプレイヤー1台
	マイクロティーチングスタジオ2	グループ学習・授業	18席	60インチタッチディスプレイ1台 ブルーレイディスクプレイヤー1台 編集用パソコン1台
大学会館 3階	ボランティアステーション	ボランティア活動の情報 提供、促進・支援	12席	パソコン3台 プリンター1台

席数合計：226席（学生6.5人に1席（学生数1,479人(27.5.1)）